

2020年(令和2年)12月4日(金曜日)

野口賞
最優秀

掃部さん(中) 会津学鳳高探求部

朝河賞
最優秀

大川さん(中) 二瓶さん(高)

県教委、優秀論文表彰

県教委は30日、科学技術や国際理解に関する優秀な論文を書いた県内の中学生、高校生をたたえる「野口英世賞」と「朝河賞」の受賞者を発表した。本年度の最優秀賞は4件で、科学技術論文の野口英世賞には掃部夏史さん(田島中1年)と中学校個人研究の部Ⅱと会津学鳳高SSH探求部Ⅱ高校共同研究の部Ⅱが選ばれた。国際理解論文の朝河賞一賞には大川桃果さん(只見中3年)と中学校の部Ⅱと二瓶英恵さん(葵高2年)と高校の部Ⅱが輝いた。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、表彰式は行わない。

掃部さんは「小名浜海岸壁におけるカキ礁の魚類等による利用」をテーマに、小名浜港のカキ礁の多様な生物の生息場所としての機能を調査した。

会津学鳳高SSH探求部は「ダンゴムシの腸内セルロース分解菌の研究」を題材に、ダンゴムシの腸内からセルロース分解菌を取り出し、分解能力の高い菌2

株を発見した。大川さんは「Think globally, Act locally」をテーマに、新聞紙やエコバッグや木製パシンの製作を通じて気が付いた、

一人一人の行動が持つ力について論じた。二瓶さんは「男女どちらもが生きやすい社会を」教育による男女格差の解消を

考える」と題し、男女平等への意識を高める教育の必要性を論じた。

今後も環境保護訴え



大川桃果さんの話 学習の成果が評価されて心からうれしい。これまで海洋学習に取り組み、新聞紙のエコバッグなどで環境保護を呼び掛けてきた。これからも世界の人々が力を合わせ、環境問題について考え、行動することの重要性を訴えていきたい。